

浄相院
だより寿
光

第 65 号

平成26年 6 月 15 日

発行：浄相院
畑中芳隆〒332-0035
川口市西青木1-10-34
TEL 048 (251) 5984
FAX 048 (251) 5792

ひとすじの救い

芥川龍之介の「蜘蛛の糸」という有名な小説をご存じかと思えます。

ある朝、お釈迦さまが極楽の蓮池のふちからそつと池底をご覧になるとカンダタという悪者が地獄で責苦に遭っている姿が見えたのでした。かつて蜘蛛を踏み殺さずに助けた優しいところを持っていたことを知っていたお釈迦さまは極楽から蜘蛛の糸をひとすじ垂らしてカンダタを救おうとされたのです。カンダタは地獄に仏とはこのことかとばかりにこの蜘蛛の糸にすがって登り始めます。しかし途中で下をみると後から罪人たちがこの糸を登ってくるではありませんか。「下りろ。下りろ。」とカンダタが喚いた途端に今まで何ともなかった蜘蛛の糸が、ぷつりと切れてカンダタは地獄の底に落ちてしまいました。というお話です。

この続きを宮地廓慧さんという京都のお坊さんが作りました。こんなお話です。

翌朝、お釈迦さまはもう一度カンダタを救おうと今度はお釈迦さまご自身が蜘蛛の糸をつたつて地獄の底へと下りてこられたのです。カンダタは罪人たちに無慈悲なことをしたことを詫びお釈迦さまに「もう一度だけこんな私をお救いください」と懇願しました。お釈迦さまはカンダタの手をしっかりと握りました。すると蜘蛛の糸は上へ上へと引き上げられて行くのでした。昨日と同じように罪人たちもまたカンダタの後から後から登ってきます。しかし今度は彼は喚きませんでした。何故ならこのひとすじの救いの糸を信じて仏さまにしっかりとつかまっている彼はもう他人を蹴落とす必要はなかったからです。カンダタは極楽浄土に救われて行きました。いつの間にか極楽の蓮池のふちに立って合掌していたカンダタの目には喜びの涙が溢れていたの

でした。

法然上人は「お釈迦さまがこの世にお生まれになったのはお念仏の教えを私たちにお説きくださるためである」と示されました。

蜘蛛の糸はまさに阿弥陀仏の救いそのものでありましょう。どこにいても「お救いください」というナムアマダブツの声するところに手を差し伸べるといふ仏さまの誓いでありましょう。このことに気づくとき私たちはいつも仏さまと一緒にいてお念仏申さずにはいられない気持ちになるように思えます。

もうすぐお盆が巡って参ります。懐かしい方々が私たちのところに戻ってきてくれます。お迎えの準備をしてこころ豊かにお待ちをしたいと思います。

(住職 畑中芳隆)

* 『天照山だより76号』坂野泰巨師の文より一部引用させていただきました。

